

地域公共交通を巡る現状と展望

2021.1.29
奥原

地域経済の現状

- ・人の歩いていない商店街
- ・人、もの、財布がパスするまち
- ・ひと気の消えた夜の駅前

地域公共交通の現状

- ・疲弊する公共交通事業者
- ・過度にマイカーに偏重した外出利用
(公共交通:マイカー:歩行:自転車等)

地域生活の現状

- ・通過交通で危険な街路
- ・子供が道で遊べない街
- ・肥満がちで不健康なまち

コンパクトシティ

連携

地域公共交通のMX*1
(モビリティトランスフォーメーション)

連携

ウォークブルシティ

歩行者モールの
形成など

まちづくりと連動した地域公共交通ネットワークの形成

交通規制など

新たな経済循環の生まれるまち

- ・ファミリー観光客が安心して滞在できるまち
- ・近隣型商店街の賑わうまち
- ・駅前に若者が集い、終電(終バス)まで楽しめるまち
- ・ナイトエコノミーが可能なまち

- ・DX*2(MaaS)によるサービス統合
- ・外出時の歩行ネットワーク向上

地域における輸送資源の総動員

- ・地域輸送資源との連携(混乗)
交教連携(スクールバスへの混乗)、
交福連携(病院巡回バスへの混乗)等

- ・貨客混乗(物流との連携)
- ・交観連携(ホテル送迎バスとの連携)

健康で住みよいまち

- ・ドアtoドアが安全に歩けるまち
- ・8千歩/日以上は歩くまち
- ・BMI25以下のまち
- ・子供が道で遊べるまち
- ・高齢者の交通事故ゼロのまち

*1 単なる交通(Mobility)の再編を超越(trans)して、
社会(まち)が「変容(変革)(formation)されること

*2 DX: Digital Transformation. MaaS もその一つ